

独房の半世紀

あなたは、その時間を
想像することができますか？

無実を叫び続けている。
ずっと。
そして、いまも。

市民集会「なぜ再審法改正が必要か」

～日弁連再審法改正全国キャラバン～

日時 2023年7月22日(土)13時～17時(開場12時30分)

場所 三重弁護士会館ホール(津市丸之内養正町1-1)

第1部 名張毒ぶどう酒事件ドキュメンタリー映画

「約束 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯」上映

第2部 講演「大崎事件にみる再審法改正の必要性」

講師 鴨志田祐美 弁護士(京都弁護士会所属)

約束

名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯

◎東海テレビ放送

刑事訴訟法における再審の規定はわずか19条の条文しかなく、再審手続に関する詳細な規定が存在しないため、えん罪被害者の救済が遅々として進まない現状があります。人生の大半を獄中で過ごし、再審で無罪となった方がいます。一方で、一度は再審開始決定が出たものの、その後、決定が取り消された方、そして、無念のままこの世を去った方も少なからずいます。法の不備により多くの方の人生と命が振り回される状況が、長きにわたり続いています。

そこで、再審請求手続における証拠開示の制度化及び再審開始決定に対する検察官による不服申立ての禁止を含む再審法(刑事訴訟法第四編)の速やかな改正の必要性について、市民の皆様と考えたいと思います。



講師 鴨志田祐美 弁護士
(京都弁護士会所属)

日弁連再審法改正実現本部本部長代行
大崎事件弁護団事務局長

事前申込み不要・入場無料

主催 三重弁護士会

共催 日本弁護士連合会

日本弁護士政治連盟三重県支部

お問い合わせ先 三重弁護士会事務局

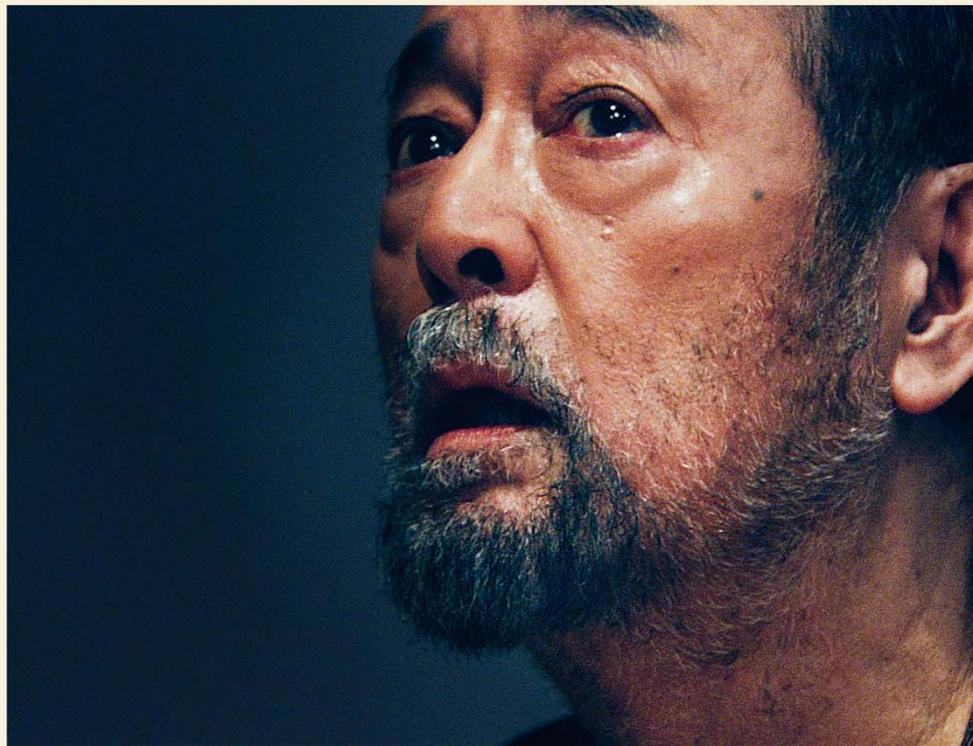
059-228-2232 <https://mieben.info/>

何度裏切られても、彼は信じ続ける。 裁判所が事実と良心に従って、無実を認めてくれると。

獄中から無実を訴え続けている死刑囚がいます。奥西勝、86歳。昭和36年、三重県名張市の小さな村の懇親会で、ぶどう酒を飲んだ女性5人が死亡しました。「名張毒ぶどう酒事件」です。奥西は一度は犯行を自白しますが、逮捕後、一貫して「警察に自白を強要された」と主張、1審は無罪。しかし、2審で死刑判決。昭和47年、最高裁で死刑が確定しました。戦後唯一、無罪からの逆転死刑判決です。

事件から51年——際限なく繰り返される再審請求と取り消し。その間、奥西は2桁を越える囚人が処刑台に行くのを見送りました。いつ自分に訪れるか分からない処刑に怯えながら。

あなたは、その恐怖を、その孤独を、その人生を、想像することができますか？



半世紀近く拘置所に閉じ込められている奥西さんの心境は測りしれません。私がこの状況に追い込まれたらどうなるか、そういう気持ちで演じました。60年俳優をやってきた中で、私にとって記念碑的な作品です。

仲代達矢

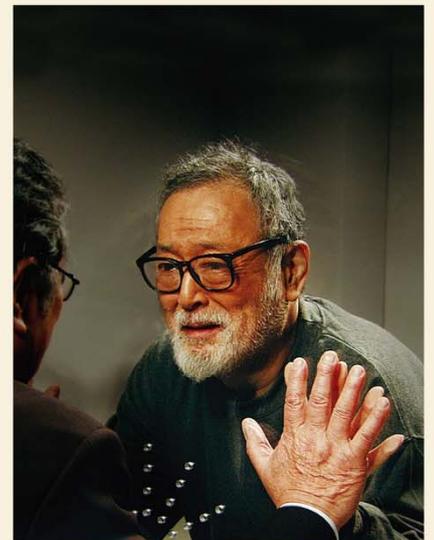
これは、冤罪である。 司法は、獄中死を望んでいるのか？

事件発生当初から蓄積した圧倒的な記録と証言を再検証し、本作を作り上げたのは、『平成ジレンマ』『死刑弁護人』の齊藤潤一（監督）と阿武野勝彦（プロデューサー）。これは、東海テレビ放送の名物ドキュメンタリー「司法シリーズ」を手掛ける二人が、カメラが入ることが許されない独房の死刑囚を描き出す野心作である。

そして、奥西勝を演じるのは日本映画界の至宝、仲代達矢。息子の無実を信じ続ける母・タツノ役に、樹木希林。ナレーションをつとめるのは、寺島しのぶ。

そう、本作は映画とジャーナリズムが日本の司法に根底から突きつける異議申立なのだ。

www.yakusoku-nabari.jp



上映会

市民集会「なぜ再審法改正が必要か」～日弁連再審法改正全国キャラバン～
日時 2023年7月22日(土)13時～17時(開場12時30分)
場所 三重弁護士会館ホール(津市丸之内養正町 1-1)

